

租税教育 七夕事業「知っておきたい子どもたちの願い」について

趣旨

本事業は、子供たちが税金の使い道を考える機会とする事を目的としています。
七夕の短冊に願い事という形で「何のために、どのように税金を活用してほしいのか？」を普段何気なく感じているであろう本音を引き出し、今の子供たちの自由な発想で思いを表現してもらいたいと考えています。

背景

租税教室では、税金の大切さを伝える「インプット型」の一つでした。この租税教室で『税金は何故必要なのか？』が判ってくれたと思います。より税金の大切さを考える為に、次のステップアップとして『では、何に活用すべきなのか？』を考える「アウトプット型」の機会が必要です。その為の租税教育としてこの事業が考えられました。

ポイント1 (4, 5, 6年生)

短冊の願い事は自宅で考えて書いてもらいます。そのことで保護者の皆さんと税金について一緒に考えてもらう機会とします。

ポイント2 (4, 5年生向け)

「税金を使って〇〇してほしい」と税金をどんな風に使って欲しいか、率直な願い事を書いてもらいます。まずは、税金を身近に考える機会とします。どんな願い事でも良しとします。まずは「アウトプット」する事が大切です。

ポイント3 (6年生向け)

「税金を何にを使って欲しいか書いてください」お願いしたときに、先生が「例えば教室にエアコンがほしい」などと例示すると、その例に倣う生徒が多くみられます。

⇒したがって、使い道を書いてもらうのではなく、「どんな街になって欲しいか？」を書いてもらい、その未来の街の姿＝使い道の「目的」を書いてもらう事とします。

⇒これは、自分だけの為の物（サービス）ではなく、社会にとって必要な物（サービス）を考える機会となります。

⇒上記を踏まえ、「どんな街になって欲しいか？」(目的)と「そのために何が必要か？」(使い道)の2つの願い事を表裏に書いてもらいます。

※同じ目的なのに、使い道が違う事もあります。それぞれの個性を「アウトプット」する事が大切です。

結果について

- ・今の子どもたちが、どんな思いを持っているか知る事が出来ます。
- ・保護者の皆さんと考える事で、子どもたちの思いが保護者の皆さんも知る事が出来ます。
- ・子どもたちの願いは、学年ごとに集計し、分類したのち統計を出します。(過去資料参考)
- ・各学年で思いの傾向が違う事を踏まえ、感じ方や目線の違いを知る事ができます。
- ・傾向などを把握する事で、これからの伝え方を変える事が出来ます。

活用

今回の集計結果を、行政へと報告致します。子どもたちの願いを行政が受け止め、行政が実際に行った「子どもたちの願い」や、実施予定の「子どもたちの願い」を行政から出してもらいます。

(過去資料参考)

行政からの報告を子どもたちに伝え、「私たちの思いが伝わった」「自分たちの願いが叶うかもしれない」と感じてもらう事で、今後の子どもたちの参画意欲を後押しします。

結び

我々岳南法人会は税についての様々な啓蒙活動を行っております。未来の社会は子どもたちが自ら支えなければなりません。未来の社会に何が必要なのかを考える機会となれば幸いです。その為に、我々青年部会は子どもたちと保護者・学校・行政それぞれの橋渡し役として、担いを務めさせていただきます。